

事例部門

ルーバー格子の家

所在地 駒ヶ根市
構造 木造平屋建
延べ面積 142.43 m²

応募者 建築企画研究室 空間計画 小澤 輝洋



片流れ屋根によるすっきりとした水平ライン



住む人にやさしい無垢材、シラス壁等の自然素材

- ・建物前面は地域交流の場、カーポートやポーチを設け、生活エリアとの分離
- ・「単純な屋根形状」により、漏水・落雪等の心配を減少し、深い軒で太陽光・風の「自然の力」を上手く活用

事例部門

大開口のある家

所在地 上伊那郡辰野町
構造 木造平屋建
延べ面積 115.93 m²

応募者 建築企画研究室 空間計画 小澤 輝洋



深い軒の出、ルーバーによる「風の通り道」の確保



木軸組を整然と配置し、「温もりと安らぎ」の実現

- ・無垢材、和紙等の自然素材による「住む人にやさしい」室内環境の実現
- ・木材も架構も単純化することで、市場を流通している定尺物の材寸で統一
- ・寒暖差の激しい信州だからこそ、「室内環境の安定」を確保するため、可能な限り「ワンフロア」の間取りと「引き戸」の多用

事例部門

起伏する屋根がつくる多様な居場所

所在地 下高井郡山ノ内町
構造 木造2階建
延べ面積 90.09 m²

応募者 株式会社 嵯峨川建築設計事務所



多様なライフスタイルが可能な2階リビング



「白い箱（外壁）」の上に、「起伏する屋根」を架け、風と光をコントロールする大きな開口部とした構成

- ・母屋と距離をとりつつ、関係性を持つような建て方
- ・周辺建物への落雪に配慮した屋根の掛け方
- ・屋根下に出る様々な居場所を持ったリビングによって雪を負のイメージとしない多雪地域だから出来る豊かな空間づくりを計画

事例部門

古民家再生～200年住宅への挑戦～

所在地 茅野市
構造 木造2階建
延べ面積 369.25 m²

応募者 サンプル DESIGN WORKS



薪ストーブのある開放的なLDKから、庭を眺める暮らし



全て天然木を用いたリビング

- ・140年以上ものあいだ受け継がれてきた歴史ある建物を、次の世代も安心して引き継ぎ暮らせるような「これからも持続可能な建物の実現」
- ・人と地域との付き合いを大切にできるパブリックとプライベートの間のようなスペースを玄関から続く土間スペースに用意

事例部門

定年後を謳歌、「自然と穏やかに暮らす」住まい

所在地 長野市
 構造 木造2階建
 延べ面積 122.90㎡
 応募者 ㈱湯本建築設計 代表取締役 湯本 敬一郎



景観に配慮した杉の板塀



県産材を利用した天井と床

- ・住まいと庭のつながりであるウッドデッキの活用（お茶の場、ハーブの乾燥場等）により、ライフスタイルが広がる
- ・昔ながらの知恵（軒、蔭、障子）を取り入れ、年間通してエネルギー負荷を抑えた健康的な暮らし

事例部門

八ヶ岳山麓に建つ民家の再生

所在地 茅野市
 構造 木造2階建
 延べ面積 238.43㎡
 応募者 ㈱かわかみ建築設計室 川上 恵一



地域に開いた再生後の建物と日本庭園



復活させた三和土による土間と吹抜け

- ・1ターン移住者の住まい、土蔵に設けた音楽室ではミニコンサートも
- ・民家は地方の証明書といわれるが、自然と生業を素直に受け止めて現代に至っている。機能性はなくなっても、地域性、時代性は確かに生きている。
- ・減築し、構造耐力の向上と温熱環境の改善、使い勝手の向上を図る
- ・保存と創造は、同等の価値がある
- ・機能性はなくなっても、地域性、時代性は確かに生きている。

事例部門

記憶をつなぐ家

所在地 伊那市
 構造 木造平屋建
 延べ面積 141.60㎡
 応募者 dot studio 一級建築士事務所 沼 俊之



鴨居、框納まり 古材をカットしあえて綺麗な切断面を見せる



山並みと周囲の建物に調和させた外観

- ・隣接地の平屋古民家を解体し、この地に伝わる景観、暮らしの記憶を継承し、これから刻まれていく暮らしにつないでいくことをテーマにした2世帯住宅
- ・囲炉裏で燃され、この地の長い暮らし記憶を残した古民家の梁を古材として利用

事例部門

屋根の家

所在地 下伊那郡高森町
 構造 木造平屋建
 延べ面積 128.00㎡
 応募者 ㈱山田建築設計室 山田 健一郎



室内仕上げは針葉樹合板、建築主が塗装した本棚



敷地勾配に合わせた屋根と居住ボックス

- ・雨と日差しから生活を守る大きな屋根と、屋根の下に設けた居住ボックスで構成
- ・居住ボックスには、玄関の他に屋外に出入りする土間も設け、屋外・半屋外・室内が繋がる伸び伸びとした生活が広がる
- ・大地や自然が一体となる、信州の暮らしを体現

事例部門

Nさんの店舗がある三世代の家

所在地 飯田市
 構造 木造2階建
 延べ面積 150.00㎡
 応募者 新井建築工房+設計同人NEXT 代表 新井 優



すっきりとした軒先にした外観のヘアスタジオ等併用住宅



居間吹抜け空間と薪ストーブ

- ・自分の得意技や思いを活かすギャラリーや小売りを併用した「つながり」の機能を持つ家づくりは楽しい交流を生み出す
- ・多世代が住む機能はこの住宅自体を次世代につなげていく
- ・耐震+断熱気密の性能と室内空間としての架構の見え方を考えた構法
- ・一つ一つの地域材の家づくりが地域の美しい景観を形成する

事例部門

「森」のなかの「谷」

所在地 長野市
 構造 木造2階建
 延べ面積 142.57㎡
 応募者 関卓志



蛇籠と薪置場でゆるやかに道路と区切られた建物



「谷」を介して、緩やかに暖房を行きわたさせる

- ・地域の環境向上に寄与しながら居心地の良い住まいとするために、敷地に「森」をつくる
- ・住まいの中に設けた吹き抜けの「谷」により、家族の距離感や地域との距離感を各々で調整

事例部門

信州型 根羽すぎのコンパクト住宅

所在地 下伊那郡根羽村
 構造 木造2階建
 延べ面積 63.76㎡
 応募者 根羽村森林組合 代表理事 大久保 恵一



根羽杉の山に映える3棟の住宅



「信州型根羽すぎのコンパクト住宅」の啓蒙モデル

- ・「木のぬくもり」が感じられる「コンパクト住宅」でゆっくりと時を過ごす
- ・これからの山村のひとつのかたち〜川上〜、そして、これからの子育て・ライフスタイルのかたち〜川下〜
- ・コンパクト住宅は、構造材・内外装材まで、一つ一つの部材に地域材を用いた質感で、地域やそこに住む人の思いやりが繋がり、有機的で豊かに生活できる空間

事例部門

里の家Ⅲ 百農の我が家

所在地 伊那市
 構造 木造2階建
 延べ面積 102.90㎡
 応募者 清水 和雄



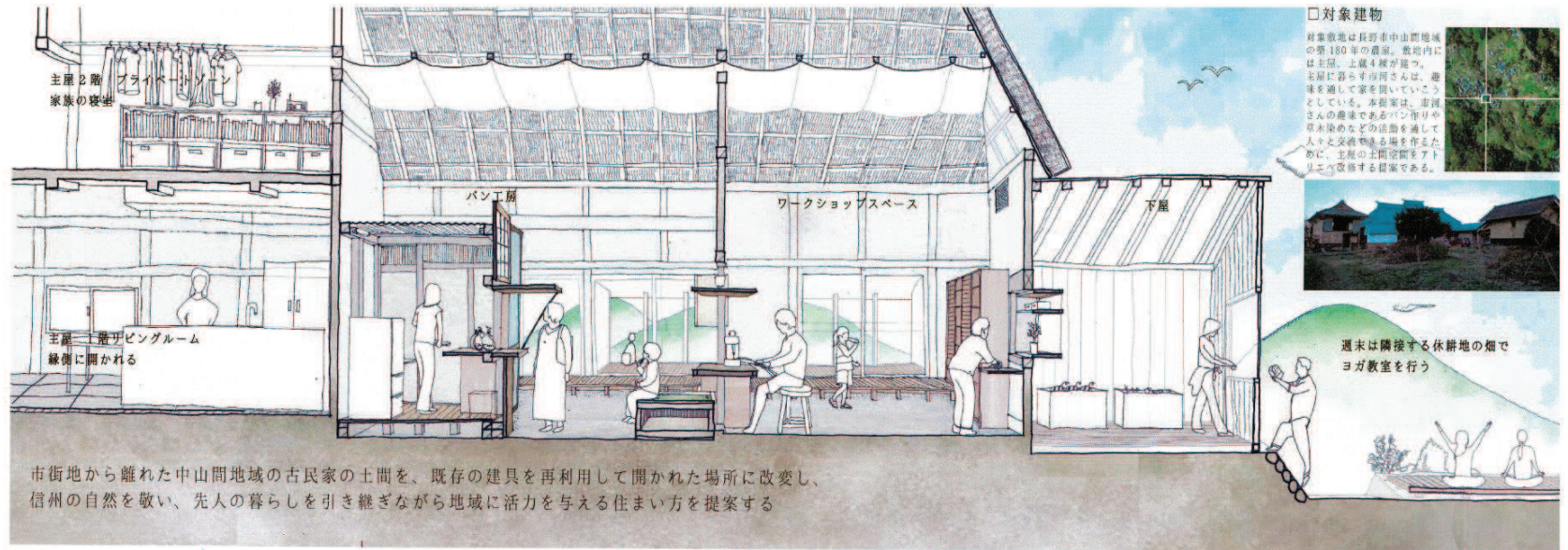
家を支える柱や梁が見渡せる暮らしの場

- ・柱が梁を支え、家を支える。屋根、外壁が囲う。それが家の中から見渡せる
- ・ここにあった50年生の木々（防風林・未整備林）を自分で伐る。玉切る。一本ずつの木の存在が感じられる。捨てずに活用する
- ・信州の農山村風景でもあるこの“場所”とつながる「百農の我が家」
- ・樹木、果樹…、草原、家畜…太陽と大地をつなぐ生物がいる環境、生産と消費のいとなみ、人の往来が生まれ、この“場所”が表現される
- ・語り続ける、暮らしながら手を加えていく



繋がる土間、継がれる記憶-既存建具の再利用によって開かれる住まい-

応募者 信州大学 寺内研究室（寺内 美紀子、堀田 翔平、奥村 拓実、安田 隆広、秋山 由季、水木 直人）

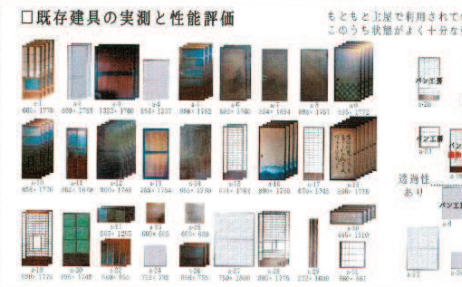


市街地から離れた中山間地域の古民家の土間を、既存の建具を再利用して開かれた場所に改変し、信州の自然を敬い、先人の暮らしを引き継ぎながら地域に活力を与える住まい方を提案する

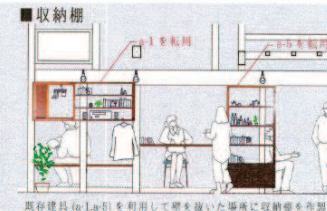
□対象建物
対象地は長野県中山間地域の約180年の農家。敷地内には主屋、土蔵4棟が建つ。主屋に暮らす市河さんは、趣味を通して家を開いていこうとしている。本提案は、市河さんの趣味であるパン作りや草木染めなどの活動を通して人々と交際できる場を作るために、主屋の土間空間をアトリエへ改修する提案である。



週末は隣接する休耕地の畑でヨガ教室を行う



□既存建具の実測と性能評価
もともと上屋で利用されていた既存建具が60枚以上残っており、全てを実測してリスト化した。このうち状態がよく十分な強度があるものを判別し、再利用して設計に活用する。



- 主屋の改修の際に撤去された建具を、土間空間の工房や収納棚の材料として活用
- 歴史的な資産を外観だけでなく空間的に引き継ぎ、環境負荷の低減や改修費用の削減を可能とする

「住まい方」の提案

信州には空き家や古民家が多い。提案では、中山間地に建つ築約180年の古民家を改修し、民泊やアトリエのようなセミパブリックな空間を設けることで、地域に開かれていくことを目指す。プライベート空間を確保しつつ、土間や蔵、屋外をパン

作りや草木染めといった趣味のスペースや、ワークショップなどの開かれた場所に。店舗併用型住宅よりも緩やかで、「人」と「地域」を優しくつなげる場づくりを提案。

審査員講評

人口減少が著しい中山間地域において、建築としての古民家のみならず、風景や文化も含めた「地域の記憶」を継承しようとする本提案は、これからの信州における住まい方を考える上で、きわめて示唆的である。なかでも、古民家の豊かな内部空間を生かし、セミパブリックな

空間を広く設ける提案は、古民家活用に新しいバリエーションを与えている。すなわち、これは地域の記憶を共有し、継承する「ローカル・メディア」として建築を捉え直す試みであり、地域に新しいコモンズを生み出す可能性を感じさせる提案といえる。（武者 忠彦）

提案部門

信州のおおらかな自然のように、 住まいと地域をおおらかに共有する シングルマザーシェアハウス

応募者 秋山 怜史

- ・シングルマザー家庭は居住貧困に陥りやすいという社会課題の一つの解決として、シングルマザーのシェアハウス（信州モデル）を提案
- ・コワーキングスペース、訪問看護、訪問介護ステーション、子ども食堂を一体に設計
- ・段階的な「共有」が必要、第一段階は世帯同士の共有、第二段階は地域や会社の人たちのサロンの共有、社会全体と関わる第三段階、この三段階を空間で表現
- ・プライバシーの守られた個別の居住エリアの戸を開けると、緑側を通じて四世帯共有リビング、リビングの戸を開ければ地域の人たちが集まる場所 平面的に共有度合いが変化していく空間構成

「共有」の第一段階エリア

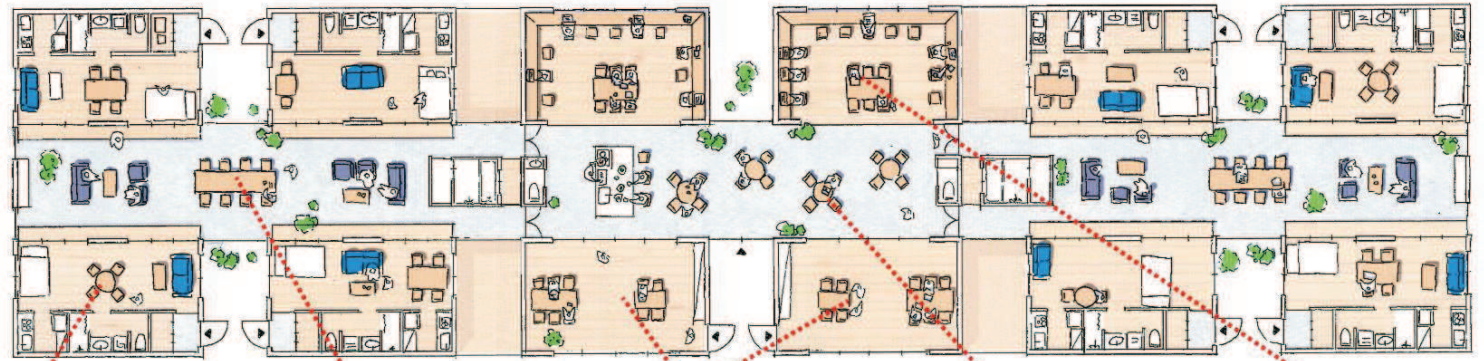
4世帯の住居と共有のリビングからなる「住まい」のエリア。

「共有」の第二段階エリア

特定の地域の人たちも集まり「地域」のエリア。

「共有」の第一段階エリア

4世帯の住居と共有のリビングからなる「住まい」のエリア。



個室

1世帯ごとのプライベートルーム。緑側を通してリビングと繋がる。水回りを完備しているため、体調や気分によって、自由な「共有」の場を柔軟に開け閉めできる。

リビング

4世帯が共有するリビング。子どもたちが一緒に遊んだり、お母さんたちがおしゃべりする団らん場。「共有」の第一段階。

訪問看護・介護ステーション

地域の健康を担うための訪問看護、訪問介護のステーションを併設。入居者同士で働くこともできる。地域包括ケアの拠点となる場。

地域の広場

子ども食堂や学習支援、地域活動を行うための地域に開かれた場所。地域と人をつなげる広場でもある。「共有」の第一段階。

コワーキングスペース

女性起業家したり、フリーランスとして活用できる場所。「働く」も「住む」も近隣に。入居者以外も利用が出来る。

提案部門

信州ならではのロケーションに 馴染む家と暮らし ～本当の贅沢を平屋生活で体感する～

応募者 サンプロ DESIGN WORKS

- ・「平屋への建築リフォームで、負の遺産を価値のある資産に」
- ・今日では人の暮らしは多様化し、価値観もそれに伴い変化している。「2階建て＝豊か」から、本当に必要なものを厳選して暮らす。
- ・土地環境に恵まれた信州だからこそ、庭や自然を身近に感じながら、住む人の暮らしにあわせたプランで、将来の不安を楽しみに変える。



提案部門

旅行中の様にワクワクする為に、 故郷の信州に暮らす

応募者 俣山翠希

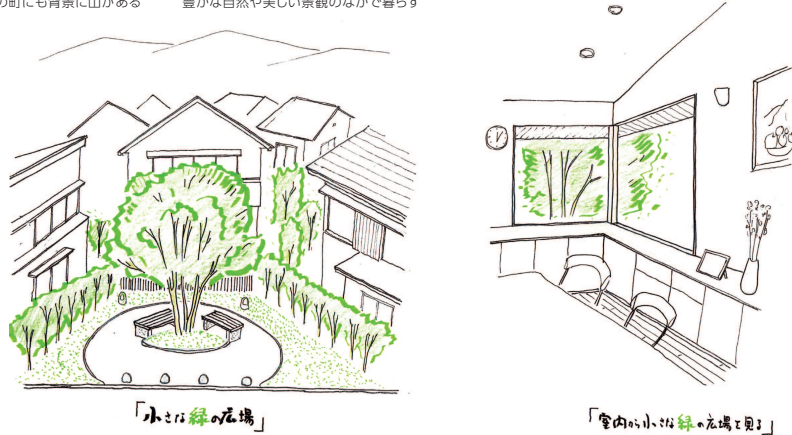


- ・転勤生活から故郷へ帰るという選択、リフォームにより家を持つという選択により、もっとこうやって住みたいという積極的な考えが生まれ、旅行中のようなワクワク感を作り出す場所へ変化
- ・落ち着く為に故郷に帰るのではなく、より人生をワクワクさせる為に故郷に帰るといった住まいの提案
- ・地元の古民家の解体材である古材を、アクセントのある梁に再利用（持続可能な社会として、古材のリサイクル）

小さな緑の広場

応募者 松本一孝

どの町にも背景に山がある 豊かな自然や美しい景観のなかで暮らす



- ・住宅密集地の「空き家」の土地を「小さな緑の広場」として整備
- ・住宅密集地の景観を変え、地域コミュニケーションの場として活用
- ・「小さな緑の広場」を家の中に取り込むことで、自然の移ろいを感じ、信州らしい「住まい方」に繋がる

めんどくさい田舎暮らしの魅力

応募者 稲垣航、加納 岳樹

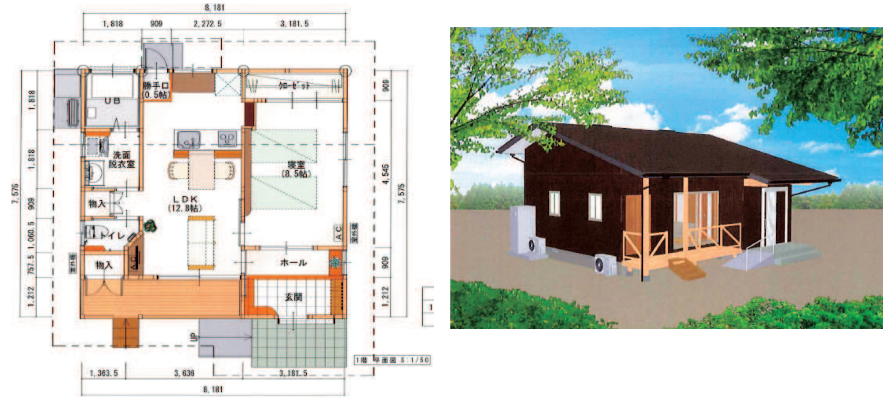


- ・豊かな信州の自然を守り、田舎暮らしを魅力的にすることを目的とした古民家改修
- ・古民家の豪快な梁構を活かした、まるでアスレチックのような内部空間、外部でダンスを披露できるスペースを提案
- ・自然や伝統と日常的に接することで、伝統文化に対する誇りを持つ
- ・農業をしながら暮らしてこそ田舎暮らしの魅力を受受できる

信州型 コンパクト住宅 やすらぎの家

応募者 根羽村森林組合 代表理事 大久保 一

村の重点施策である人口の拡大・山村定住化による地域づくりを目的とした活動拠点施設や宿泊施設とした「信州型根羽すぎ」の住宅



- ・都市と山村との交流の活性化や、交流を通して田舎暮らし憧れるに地域居住や、災害復興住宅に対する「信州型コンパクト住宅」の提案
- ・延べ床面積が20坪以下の「信州型コンパクト住宅」は、施工性が高く、低コスト、根羽村産の木材活用



信州の「住まい方」コンクール 募集要項

～令和元年度“信州の木”建築賞～

近年、長野県においては、取り組むべき課題として、人口の減少、少子高齢化、空き家の増加、地域コミュニティの衰退等があり、「住まい」を取り巻く環境が変化してきています。

顕在化する諸課題がいずれも「住まうこと」と密接に関連する中、「住まい」にあっても「住宅」（ハード）のみに留まらず、豊かな自然や美しい景観、地域の歴史や文化に根ざした信州らしい「住まい方」（ソフト）の再認識と新たな提案が求められています。

平成28年度から実施している「信州の木 建築賞（※）」ですが、今年度は、『信州の「住まい方」コンクール』として拡充し、これからの「住宅」と「住まい方」の関係について、優れた実践事例やアイデアを募集し、特に優れたものを表彰して、モデル事例として広く県内外に発信するものです。

※「信州の木」建築賞：

優秀な建築物を表彰することにより、木造建築に携わる技術者等のスキルアップを図るとともに、広く県民に木造建築の魅力を発信し、その普及に寄与することを目的に実施



【応募テーマ】～信州らしい「住宅」・「住まい方」～

「住宅」に焦点をあて、信州らしさを活かした、多様なライフスタイル、豊かな自然や美しい景観、地域の気候・風土や歴史・文化に根ざした「住まい方」（ソフト）と、それを形にする「住宅」（ハード）の提案を求めているものです。

主催	長野県
共催	公益社団法人長野県建築士会、一般社団法人長野県建築士事務所協会、公益社団法人日本建築家協会長野県クラブ、信州建築構造協会、長野県木材協同組合連合会

募集期間 令和元年7月10日（水）～令和元年8月28日（水）

募集作品 部門ごとに下表のとおりとします。

事例部門	以下のすべての要件を満たすもの実践事例 ①県内に所在する「住宅」※1（戸建て、長屋、共同住宅、併用住宅※2） ②主要構造部の全部又は一部が木造であること ③信州らしい「住まい方」※3の実践
提案部門	信州らしい「住まい方」※3のアイデア提案 【提案の考え方】 ○多様なライフスタイル等に応じた、信州で住んでみたい「住宅」・「住まい方」の計画や提案（イメージを含み、幅広く提案可） ○建物の一部を住宅として利用する等、部分的な利用に係る提案も可 ○木造建築物以外による提案も可 ○工事を伴わない既存住宅を活用した実例（年度要件なし、部分的な利用に係る提案も可）

- ※1 次の期間における新築、リフォーム等（リノベーション、古民家改修含む）を行ったもの
ア 新築：平成19年9月1日～令和元年5月31日までに竣工した建物
イ リフォーム等：平成19年9月1日～令和元年5月31日までにリフォーム等工事を実施した建物
- ※2 併用住宅にあつては、延床面積の過半が住宅であること
- ※3 信州の豊かな自然や美しい景観を活かした住まい方や、地域の気候・風土や歴史・文化に根ざした多様な「住まい方」（二地域居住、まちなか暮らし、地域特性を活かした工夫 等

応募資格 部門ごとに下表のとおりとします。

事例部門	応募作品の 建築主、設計者又は工事施工者 (設計者等が複数の場合は連名の応募もできます。) ただし、応募に当たっては、建築主、設計者及び工事施工者の同意の上で申し込んでください。
提案部門	どなたでも応募できます。 （県外にお住まいの方も応募可） ただし、既存住宅に係る提案にあつては、提案者が建物所有者でない場合は、建物所有者の同意の上で申し込んでください。

表彰	賞（部門ごとに） 最優秀賞（県知事賞）………1点 優秀賞（共催団体賞）………5点程度 記念の木製盾等を贈呈して表彰します。 応募作品は長野県のホームページ等に掲載します。
表彰・公表	

審査委員	(敬称略、五十音順)
審査委員長	五十田 博 京大大学生存圏研究所 教授
審査委員	荒井 洋 公益社団法人日本建築家協会長野県クラブ 小河 節郎 一般社団法人長野県建築士事務所協会 荻原 白 公益社団法人長野県建築士会 宮崎 正毅 長野県木材協同組合連合会 武者 忠彦 信州の多様な住まい方検討専門委員会 (信州大学経済学部准教授) 山辺 豊彦 信州建築構造協会

審査基準 部門ごとに、下表の項目などを評価対象とし、総合的に審査を実施します。

事例部門	<ul style="list-style-type: none"> ・信州に住みたいと思える魅力ある「住まい方」を実践しているもの。 ・信州の地域特性等を踏まえ、それを活かす工夫がなされているもの。 ・デザインに優れ、地域の文化や風土、まちなみや周辺の景観と調和がとれているもの。 ・環境負荷の低減に配慮・省エネルギー化への取組や提案がなされているもの。 ・その他、県産木材を積極的に活用するなど、その特徴や良さが長野県における木造住宅等の模範となるようなもの。
提案部門	<ul style="list-style-type: none"> ・信州に住みたいと思える魅力ある「住まい方」の提案が示されているもの。(実例又はアイデアとも) ・信州の地域特性等を踏まえ、それを活かす工夫がなされているもの。

審査方法	<ul style="list-style-type: none"> ○一次審査〈書類選考〉 9月上旬 <ul style="list-style-type: none"> ・「応募書類」による書類選考を行ないます。 ・「事例部門」については、二次審査対象作品を選出します。 ・「提案部門」については、場合により作品内容を確認する場合があります。 ○二次審査〈現地審査：「事例部門」のみ〉 9月下旬 <ul style="list-style-type: none"> ・二次審査対象作品の現地審査（外観等）を行います。 ・なお、応募者等に、現地で審査対象作品の説明を求める場合もあります。 ○受賞作品の決定 10月上旬
-------------	--

応募書類 次の「応募概要書」に必要事項を記入し、応募シートを添付のうえ、郵送（宅配便可）又は持参してください。また、応募書類は保護のためにクリアホルダーに収納してください。

事例部門	応募概要書【事例部門】 (A4サイズ2頁)	応募者、連絡先、作品概要、関係者、応募作品説明等を記入
	応募シート【事例部門】① (A3サイズ1頁、1枚)	設計図（配置図、平面図、必要に応じて立面図、断面図等を表現したもの）の貼付、コメント等
	応募シート【事例部門】② (A3サイズ1頁、2枚以内)	写真1版6枚程度を基本として貼付（画像データでも可）。写真内容及び「住まい方」について、コメント等を入れてください。
提案部門	応募概要書【提案部門】 (A4サイズ2頁)	応募者、連絡先、関係者、応募作品説明等を記入
	応募シート【提案部門】 (A3サイズ1頁、1枚)	住まい方の提案 ・タイトル、コンセプト ・イラスト絵、平面図等の図面、写真1版（画像データでも可） 貼付又はコメント等で表現

○応募概要書、応募シートは、片側を綴じ、表紙（A4サイズ）に作品名称（タイトル）のみを記載し、2部提出してください。
○最優秀賞・優秀賞等の作品については、別途電子データ等の提出を、後日、お願いする場合があります。

信州の木建築賞について

「信州の木建築賞」は、県内の木造建築物の普及と木造建築事業者等のスキルアップや担い手確保を図るため、「信州の木」建築賞を平成28年度に創設しました。

広い分野からの優れた建築物を掘り起こすために、募集する建築物の対象を変更しながら開催してきました。

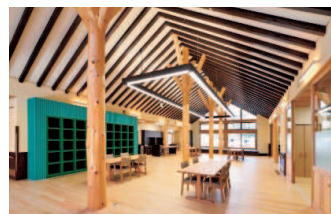
年 度	対 象
平成28年度	木造建築物（延べ面積500平方メートル以上）
平成29年度	概ね築後70年以上が経過した木造建築物のリフォーム・リノベーション
平成30年度	500㎡未満の小規模建築物

これまでの最優秀賞について、掲載いたします。

平成28年度 信州の木建築賞 最優秀賞

根羽村高齢者福祉施設 ねばねの里

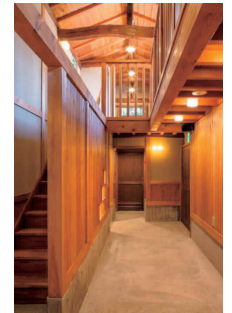
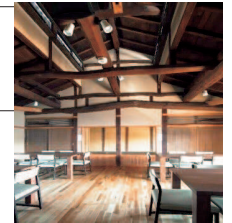
所在地 下伊那郡根羽村
 建築主 根羽村長 大久保 憲一
 設計者 備みず設計



平成29年度 信州の木建築賞 最優秀賞

海野宿滞在型 交流施設 うんのわ

所在地 東御市
 建築主 東御市長
 設計者 株式会社アキディアック



平成30年度 信州の木建築賞 最優秀賞

満蒙開拓平和記念館

所在地 下伊那郡阿智村
 建築主 (一社) 満蒙開拓平和記念館
 設計者 新井建築工房+設計同人 NEXT

